

に於いてすらその經濟的並に社會的諸關係の改善向上は出産減退化の傾向を伴ふといふ事實を證據立てるに足るものだとモンベルトはいふ。そして其間に間々認知せられる反規則的な例外的事例も、例へば之をミュンヘン市の家賃の例に於いて見たように、全くの特殊事情によるもので、合法則的な聯關の存在を否定するものではない。また上掲諸表に見られるその他の小さな數字上の出入は、妊孕年齢期の妻の年齢構成や、その他婚姻年

齡、婚姻持續期間等のこまかい相異をも同時に考慮し得ないことから生ずる筈であり、また觀察實數が小さい爲に實數に於ける僅かの差が比率の上では比較的大きく現はれるといふような事情からもくる。要之、社會的福祉の増進と妊孕率低下との相關は、モンベルトにとつては、恰も近代人口現象に於ける第一原理の如く、統計的分析を詳細にすればするほど、より純粹な形を以つて確證せらるべきものであることになる。(以下次號)

獨逸の人口動態

(人口千に付)

年	婚姻		出生		死亡		婚姻		出生		死亡		婚姻		出生		死亡	
	結婚	離婚	出生	死亡	結婚	離婚	出生	死亡	結婚	出生	死亡	結婚	出生	死亡	結婚	出生	死亡	
一九一九	八・二	三・四	二九・六	一八・九	八・〇	三・六	二五・〇	一八・七	八・一	三・三	一八・〇	二九・五	七・七	三・〇	二〇・七	一一・九		
一九二〇	一〇・三	三・九	二九・〇	一九・〇	八・〇	三・七	二五・四	一八・八	八・〇	三・三	一八・一	二九・五	七・七	三・〇	二〇・七	一一・九		
一九二一	一〇・〇	三・九	二八・三	一九・一	八・〇	三・七	二五・一	一八・九	八・〇	三・三	一八・一	二九・五	七・七	三・〇	二〇・七	一一・九		
一九二二	九・五	四・〇	二七・七	一九・二	七・九	三・七	二四・六	一八・八	七・九	三・三	一八・一	二九・五	七・七	三・〇	二〇・七	一一・九		
一九二三	九・一	四・〇	二七・六	一九・三	七・九	三・七	二四・六	一八・八	七・九	三・三	一八・一	二九・五	七・七	三・〇	二〇・七	一一・九		
一九二四	八・五	四・〇	二六・三	一九・四	七・九	三・七	二四・六	一八・八	七・九	三・三	一八・一	二九・五	七・七	三・〇	二〇・七	一一・九		
一九二五	八・〇	四・〇	二六・四	一九・五	八・〇	三・七	二四・八	一八・九	八・〇	三・三	一八・一	二九・五	七・七	三・〇	二〇・七	一一・九		
一九二六	七・七	四・〇	二六・二	一九・六	八・二	三・七	二四・八	一八・九	八・二	三・三	一八・一	二九・五	七・七	三・〇	二〇・七	一一・九		
一九二七	七・七	四・〇	二六・二	一九・六	八・二	三・七	二四・八	一八・九	八・二	三・三	一八・一	二九・五	七・七	三・〇	二〇・七	一一・九		
一九二八	七・五	四・〇	二六・〇	一九・八	八・四	三・七	二四・五	一八・七	八・四	三・三	一八・一	二九・五	七・七	三・〇	二〇・七	一一・九		
一九二九	七・五	四・〇	二六・〇	一九・八	八・四	三・七	二四・五	一八・七	八・四	三・三	一八・一	二九・五	七・七	三・〇	二〇・七	一一・九		
一九三〇	七・五	四・〇	二六・〇	一九・八	八・四	三・七	二四・五	一八・七	八・四	三・三	一八・一	二九・五	七・七	三・〇	二〇・七	一一・九		
一九三一	七・五	四・〇	二六・〇	一九・八	八・四	三・七	二四・五	一八・七	八・四	三・三	一八・一	二九・五	七・七	三・〇	二〇・七	一一・九		
一九三二	七・五	四・〇	二六・〇	一九・八	八・四	三・七	二四・五	一八・七	八・四	三・三	一八・一	二九・五	七・七	三・〇	二〇・七	一一・九		
一九三三	七・五	四・〇	二六・〇	一九・八	八・四	三・七	二四・五	一八・七	八・四	三・三	一八・一	二九・五	七・七	三・〇	二〇・七	一一・九		
一九三四	七・五	四・〇	二六・〇	一九・八	八・四	三・七	二四・五	一八・七	八・四	三・三	一八・一	二九・五	七・七	三・〇	二〇・七	一一・九		
一九三五	七・五	四・〇	二六・〇	一九・八	八・四	三・七	二四・五	一八・七	八・四	三・三	一八・一	二九・五	七・七	三・〇	二〇・七	一一・九		
一九三六	七・五	四・〇	二六・〇	一九・八	八・四	三・七	二四・五	一八・七	八・四	三・三	一八・一	二九・五	七・七	三・〇	二〇・七	一一・九		
一九三七	七・五	四・〇	二六・〇	一九・八	八・四	三・七	二四・五	一八・七	八・四	三・三	一八・一	二九・五	七・七	三・〇	二〇・七	一一・九		
一九三八	七・五	四・〇	二六・〇	一九・八	八・四	三・七	二四・五	一八・七	八・四	三・三	一八・一	二九・五	七・七	三・〇	二〇・七	一一・九		
一九三九	七・五	四・〇	二六・〇	一九・八	八・四	三・七	二四・五	一八・七	八・四	三・三	一八・一	二九・五	七・七	三・〇	二〇・七	一一・九		
一九四〇	七・五	四・〇	二六・〇	一九・八	八・四	三・七	二四・五	一八・七	八・四	三・三	一八・一	二九・五	七・七	三・〇	二〇・七	一一・九		
一九四一	七・五	四・〇	二六・〇	一九・八	八・四	三・七	二四・五	一八・七	八・四	三・三	一八・一	二九・五	七・七	三・〇	二〇・七	一一・九		
一九四二	七・五	四・〇	二六・〇	一九・八	八・四	三・七	二四・五	一八・七	八・四	三・三	一八・一	二九・五	七・七	三・〇	二〇・七	一一・九		
一九四三	七・五	四・〇	二六・〇	一九・八	八・四	三・七	二四・五	一八・七	八・四	三・三	一八・一	二九・五	七・七	三・〇	二〇・七	一一・九		
一九四四	七・五	四・〇	二六・〇	一九・八	八・四	三・七	二四・五	一八・七	八・四	三・三	一八・一	二九・五	七・七	三・〇	二〇・七	一一・九		
一九四五	七・五	四・〇	二六・〇	一九・八	八・四	三・七	二四・五	一八・七	八・四	三・三	一八・一	二九・五	七・七	三・〇	二〇・七	一一・九		
一九四六	七・五	四・〇	二六・〇	一九・八	八・四	三・七	二四・五	一八・七	八・四	三・三	一八・一	二九・五	七・七	三・〇	二〇・七	一一・九		
一九四七	七・五	四・〇	二六・〇	一九・八	八・四	三・七	二四・五	一八・七	八・四	三・三	一八・一	二九・五	七・七	三・〇	二〇・七	一一・九		
一九四八	七・五	四・〇	二六・〇	一九・八	八・四	三・七	二四・五	一八・七	八・四	三・三	一八・一	二九・五	七・七	三・〇	二〇・七	一一・九		
一九四九	七・五	四・〇	二六・〇	一九・八	八・四	三・七	二四・五	一八・七	八・四	三・三	一八・一	二九・五	七・七	三・〇	二〇・七	一一・九		
一九五〇	七・五	四・〇	二六・〇	一九・八	八・四	三・七	二四・五	一八・七	八・四	三・三	一八・一	二九・五	七・七	三・〇	二〇・七	一一・九		
一九五一	七・五	四・〇	二六・〇	一九・八	八・四	三・七	二四・五	一八・七	八・四	三・三	一八・一	二九・五	七・七	三・〇	二〇・七	一一・九		
一九五二	七・五	四・〇	二六・〇	一九・八	八・四	三・七	二四・五	一八・七	八・四	三・三	一八・一	二九・五	七・七	三・〇	二〇・七	一一・九		
一九五三	七・五	四・〇	二六・〇	一九・八	八・四	三・七	二四・五	一八・七	八・四	三・三	一八・一	二九・五	七・七	三・〇	二〇・七	一一・九		
一九五四	七・五	四・〇	二六・〇	一九・八	八・四	三・七	二四・五	一八・七	八・四	三・三	一八・一	二九・五	七・七	三・〇	二〇・七	一一・九		
一九五五	七・五	四・〇	二六・〇	一九・八	八・四	三・七	二四・五	一八・七	八・四	三・三	一八・一	二九・五	七・七	三・〇	二〇・七	一一・九		
一九五六	七・五	四・〇	二六・〇	一九・八	八・四	三・七	二四・五	一八・七	八・四	三・三	一八・一	二九・五	七・七	三・〇	二〇・七	一一・九		
一九五七	七・五	四・〇	二六・〇	一九・八	八・四	三・七	二四・五	一八・七	八・四	三・三	一八・一	二九・五	七・七	三・〇	二〇・七	一一・九		
一九五八	七・五	四・〇	二六・〇	一九・八	八・四	三・七	二四・五	一八・七	八・四	三・三	一八・一	二九・五	七・七	三・〇	二〇・七	一一・九		
一九五九	七・五	四・〇	二六・〇	一九・八	八・四	三・七	二四・五	一八・七	八・四	三・三	一八・一	二九・五	七・七	三・〇	二〇・七	一一・九		
一九六〇	七・五	四・〇	二六・〇	一九・八	八・四	三・七	二四・五	一八・七	八・四	三・三	一八・一	二九・五	七・七	三・〇	二〇・七	一一・九		

①エルザス・ロートリンゲンを除く。②一九一九年以降は更に其他の割讓地を除く第一次歐洲大戰後の獨逸國領域、但しザール地方を除く。③舊埃太利、ズデーテン獨逸地方等を加へたる現獨逸國領域、但し東部の舊波蘭領域と西部のオイベン・マルメチ・モレスネ地方を除く。④一九三九年九月一日以降の戦死を除く。